

おはようございます。

本日で令和五年度第一学期が終了します。

皆さんにとって、この一学期はどんな学期だったでしょうか？一年生は入学後、親元を離れ寮や下宿で過ごすようになった人、遠距離の通学をするようになった人も多くありました。新しい友達はできたでしょうか？二年生は、一年生時とはクラスが変わり、各学科・コース毎の専門的な授業も多くなりました。三年生のうち、部活動を引退した人は、いよいよ卒業後の進路決定に佳境の時期（いわゆるクライマックス、大切な時期、将来の活躍に結び付く進路を決定する時期）を迎えました。

この一学期も多くの人が、学習や資格取得、研究活動、部活動などで大変活躍しました。先生方、私もうれしく思っています。上位大会への出場や大会優勝などが叶わなくても、日々の厳しい練習等は、競技力だけでなく、体力作りや仲間との一体感を含め、根気強く取り組んできたこと、また流した汗や涙は、必ず自分の大きな財産として、今後の人生に彩りを添えてくれます。

昨日の伝達表彰や壮行会でもあったとおり、夏の全国高校総体（インターハイ・北海道や和歌山県で開催）に十二名が出場、その他にもカッター部は高体連種目ではないものの福岡県での全国大会に臨みます。それぞれ、本校、京都府の代表として、健闘してもらうことを応援しています。

対外試合や入賞した際の賞状はありませんが、マリンバイオ部では、マダラギンポの京都府初確認、論文掲載（昨年度のシュンカンハゼに続き二回目）が実現するという吉報もありました。ノーベル賞にまでも通じる学術論文は、研究者が新しい発見をした場合、それを世間に公表する手段で、新聞でも一般の雑誌でも著書でもなく、いわゆる「学術価値」も生じるもので、研究者の方々が、学術論文としての発表を日々目指されていることを考えると、大変輝かしいことであります。

ここまでで、皆さんの中には、もしかしたら「自分は部活動で優秀な成績も出していないし、目立つこともなく、応援してもらっていない。」など思っている人も多いかもしれません。

そこで本日、一点紹介します。タレントの城島 茂さん、TOKIOという歌手のメンバーの一人ということですが、皆さんも知っていることと思います。

その城島さんが、五月二十九日の毎日新聞のコラムの中で、「頑張っているも、めげそうな時もあるでしょう。その時に踏ん張れる力を与えてくれたり、心の支えになってくれたりするのは、信頼する仲間、家族などの存在です。」と仰っています。

長い人生、誰しもが、順風満帆な人生、即ち、追い風を帆（ヨットのセイルを思い浮かべてもらえれば）いっぱいを受けて、船が軽快に進むような人生ではなく、多くの人が壁にぶつかり、場合によっては挫折を味わいながら、そんな試練を乗り越えて、成長していくものであります。そのような苦しいときに、支えてもらえる人がいれば、立ち直れることも多く、自分と関係ある方との関係を良い状態に保つことが大切と述べられています。

また、城島さんは、「人生は再チャレンジの連続」「チャレンジには失敗の連続。失敗したらやり直せばいい」とも述べられています。是非参考にしてください。

明日から夏休みです。皆さんそれぞれが、二度と繰り返されない日であることを自覚し、悔いのない日を過ごしてほしいと思います。高校生ですから、成人に達している人もいる

年代（ほぼ大人）で、一人一人が同じことをするのはなく、主体的に、進学や就職、部活動、読書、資格試験、日頃の各教科の学習の予習・復習、体力作りのトレーニング、もしかしたら趣味を大切にする人もあるかもしれません。自分にとって、価値あること、将来に向けて有益であることを見つけ、有意義な夏休みになることをお願いしておきます。

新型コロナウイルスの扱いが、この五月に五類に引き下げられ、インフルエンザと同じ扱いになり、初めての夏休みを迎えましたが、本校では五月中・下旬に全校生徒の1/3がインフルエンザに感染し、臨時休校とせざるを得ませんでした。コロナ感染者もなくなっています。（感染者がいまだに出ています。）

長い夏休み、交通事故、水の事故、怪我や感染症から、自分の身を自分で守り、全員が元気な姿で八月二十八日の二学期始業式に出席してもらえることを願っております。私からは以上です。

令和五年七月二十日

校長 上林 秋男